

86. 八戸市大須賀海岸の海浜環境における大規模津波の影響による自然改変についての調査

(調査・研究)

実施時期又は期間

平成23年4月3日～平成23年6月25日までの期間のうち7日間。
平成24年度4月以降は月に1日程度。

対応部局及び人員

教育学部教員 1人

実施の背景・目的

人工施設のない典型的な海浜環境である八戸市大須賀海岸を対象に、津波による自然改変の特徴の抽出を目的として野外調査と地形判読、津波砂の粒度分析を行った。

実施概要

平成23年4月3日から6月25日までに7回現地調査を実施し、前浜から砂丘、後背湿地域の改変状況と、津波砂の層厚分布調査を行い、津波砂の試料採取を行った。

効果又は結果

津波により砂丘砂が侵食され背後の湿地域に堆積した。砂の堆積は開析谷から引き波により再移動し、層厚分布に偏差をもたらした。砂丘と後背湿地から成るポケットビーチ特有の特徴が把握された。学術誌への投稿準備中である。

今後の課題

汀線と侵食砂丘の回復過程を確認するために経年変化を記録する必要がある。

担当部局名

教育学部

その他参考となる事項

県内での近似する調査研究例はほかにない。



〈津波砂の層厚計測〉



〈津波の流行方向の計測〉